

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもデイサービスひまわり				公表日 令和8年2月27日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	2	来年度に向けて、クラス編成を考慮している。	各クラスに対して、利用者比率が異なり、負担感を感じることがあった。整理整頓を常に意識しておきたい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	2	職員配置については、基準を満たしている。	障害程度に対する職員数が足りていないという感はある。(基準上は満たされているが)	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7			利用者の発達に合わせて構造化をしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	利用児童の人数的に十分とは言えないが、時間の工夫をしながら、部屋の使い方を工夫している。	常にクールダウンエリアを使用できるように対応している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	1	PDCAサイクルは支援の要であり、この繰り返しで室の高い支援へと繋がっているため、その流れについて、全職員が意識できるように研修会等を通して取り組む。	パート職員にも支援理由を伝えて統一した支援が行えるように対応している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			できる限り、自分の想いを発信できるようにしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	法人内研修としてオンデマンド研修や新人職員研修・療育研修などを通して個々の職員が研修を受けられる環境を整えている。	法人内の研修の機会が今年度は少なかった。	
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		保護者(児童)・他事業所や相談など密な連携を図りながら、児童を取り巻く環境の調整を心掛けている。	保護者・児童ニーズに常に意識をしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		複眼的角度から児童を捉え、必要なニーズを理解し、支援計画に繋げるよう心掛けている。	できる限り保護者を入れ、本人に必要なサービス計画を作成していく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		全ての職員が計画を理解し、全職員で支援アプローチがなされていけるように対応している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		特に児童は日々成長が著しく、柔軟かつスピーディーな対応が求められることが多くある。その一瞬一瞬を見逃さずに捉えて対応している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7				

切 な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	それぞれのチームで検討しているが、他チームは、その支援についての理解を深めている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			支援が固定化しないよう工夫している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		個別と集団（大小含める）のメリハリを意識した。今年度は制作やイベントに重点を置き、プログラムを展開した。	今年度は集団活動の機会が多かった。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎日朝礼・夕礼を欠かさず取り組む。ヒヤリハットなどの振り返りや未然対応なども検討内容に含めた。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		上記に同じ。	パート職員の退勤時間前にクラスごとの振り返りを行い、共有化を行うことができた。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		主観・客観的の側面・事実と仮説・実証までの流れを区別し、進捗状況について冷静な立場で検討することに取り組んだ。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		個別支援計画については、チームが一体的に立案できるように情報の共有化を図った。	児童発達管理責任者と常に支援の共有を図った。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		意思決定支援については、自身で選択する意思を第一に重要視し、幼少期の頃から選択する経験を積んでいく。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		人数には限りはあるが、できるだけ参加できる体制を整えている。	学校・相談員と連携をしている。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	概ね対応は児童発達支援管理責任者が窓口となり、情報の齟齬が生じないように対応している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2	情報については、相談員を中心に、情報共有を行った。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7			個別にサポートブックを作成している職員もいる。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	3	今後、より連携を図れる体制を整えていきたい。	※未記入1名。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	5	行事などを通して、地域住民との関わりを設けることができたが、休日ということもあり、参加児童数は少ない現状。来年度はより幅が持てるように地域交流を図っていきたい。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7		あらゆる研修の情報提供に努めた。研修には人数制限もあり、全職員が交代して参加できるように務めた。	協議会側から人数制限があり、参加したい職員がいても参加できないことがあった。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		保護者送迎の利点でもある。日々の情報を直接的に伝え、現状を知っていただいている。	ご利用者の出来ているところを各クラスで共有・理解し、次のステップへと向かっている。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1	家族に対して、関わりの方であったり、視覚的支援の提供（自宅では難しいため、事業所で支援ツールの作成をし、自宅で実施していただく）に取り組んでいる。	今年度は家庭支援についても必要に応じて取り組めた。	

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	1	取り組んではいるが、不十分（十分な理解がなされているか）な部分がある。制度のことや単価のことなど、よりきめ細やかな伝達に心掛ける。	十分な説明が行えていない意見もあった。事務的な提示となっている部分もあるのではないか？
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		誰に対しても根拠のある説明ができるかが重要と考えている。今後もこの意識を広げて行きたい。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		家庭の中を見る事ができないため、面談の際には、内容に配慮しつつ、できる限り想いの共有化を図れるようにしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	4	環境整っていないため、なかなか十分な機能を果たせていない現状。左記の課題に対し、真摯に取り組んでいきたい。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		要望等については真摯に受け止め、できる限り対応を行った。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		できる限り情報発信をしている。	HP・SNSでの発信を行なっている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		シュレッダーなどを使用し、外部に出ないように対応している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	2	今年度から新規行事に参加をしているが、休日日のため、参加者が少ない現状。課題が残る。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	BCPなどのマニュアルを作成し、想定訓練を実施しているが、不十分な部分もあり、次年度の課題とする。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	2	避難訓練等について、マニュアル通りにはいかないこともあるが、それも想定内として捉え、今後の課題としている。マニュアル通りにいかないからこそ、真の訓練である。	作成はしてあるが、その通りの流れを行うことは難しい状況もある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			医師の診断書は事業所にも保管しておきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1	不十分な部分もあり、今後対応していく。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	1	会議などでヒヤリハットの検討に取り組んでいる。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7				